SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

第22回静岡大学技術報告会を迎えて

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 静岡大学技術部 公開日: 2017-06-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 木村, 雅和 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00010239

巻頭言

※ 以下は報告会当日の技術部長挨拶を文字に起こしたものである

第 22 回静岡大学技術報告会を迎えて

技術部長　木村雅和

皆さん、おはようございます。今ご紹介頂きました静岡大学技術部技術部長の木村でございます。今日は第 22 回目の技術報告会の開催、誠におめでとうございます。また他大学から多くの皆さんにご参加いただきまして大変感謝致しております。ありがとうございます。

この技術報告会は、先程学長からもお話がありましたけれども大変有意義な会であると私自身も認識しておりますし、先程実行委員長からもお話がありましたが、多くの若手の皆さんの発表があるということで大変頼もしく思っております。今日のこの発表を機にまた大きく成長して頂けたらと思っております。

事前に頂きました要旨集を見ていきますと、実に多様なご発表がありまして技術職員の職務が多岐に渡るということを理解することができます。またこのような技術職員を一つの組織としてまとめ上げて、ちょうど先程学長から 5 年目という話がありましたけれども、統括技術長あるいは技術長、部門長には大変なご苦労があると思いますけど是非ベテランの皆さんの力で組織を引っ張って頂きながら今日も多くの若い皆さんが発表して頂きますけども、是非それに協力して頂けたらと思います。

技術部が一つにまとまって大学のために機能していくと、静岡大学も物凄く大きな力になると信じていますし、教育・研究・社会貢献の柱にも、静岡大学のみならず地域の近隣の大学、あるいは全国の大学と連携がつながれば、また新しいものを生み出すようなエネルギーになるのではないかというふうに考えています。私は技術部長になってから 1 年半以上経ちますが、これから益々技術部の存在に期待しているところであります。先程学長の話にありましたが、全国的に大学改革が進んでいく中で益々技術部の果たす役割は重要になっておりますし、その中で効率的、あるいは効果的な技術支援や教育支援をして頂くことが重要ではないかと思っています。

大変簡単ではございますけども、今日のこの機会を生かして頂きまして、是非技術職員皆さん相互の情報交換やまた多くの他大学の皆さんとの交流の機会を深めて頂けたらと思っています。22 回目の技術報告会が有意義な会になりまして、皆さん活発な意見交換をされることを祈願しまして私の挨拶にかえさせて頂きたいと思います。本日はおめでとうございます。宜しくお願い致します。